

Japanese: LEVEL I

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory selection

あさひが あかいよ あいうえお

かきねに からすが かきくけこ

ささのは さらさら さしすせそ

たいこを たたいて たちつてと

なめくじ のろのろ なにぬねの

はとぽっぽ ほろほろ はひふへほ

まいまい ねじまき まみむめも

やきぐり ゆでぐり やいゆえよ

らいちょうは さむかる らりるれろ

わいわい わっしょい わいうえお

Japanese: LEVEL I (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection I

たいりょう

かねこ みすず

あさやけ こやけだ

たいりょうだ

おおばいわしの

たいりょうだ

はまはまつりの

ようだけど

うみのなかでは

なんまんの

いわしのとむらい

するだろう

Japanese: LEVEL I (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection II

そら

まど みちお

そらが まぶしい。

このわたしの^{うえ}上にも、

あそこの^{うし}牛の上にも、

あの^{やま}山の上にも^い生きている。

^{いっほんまつ}一本松の上にも、みんなおんなじに

^{あお}青くすんで。

Japanese: LEVEL I (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection III

くまさん

まど みちお

はるが きて、めが さめて

くまさん ぼんやり かんがえた

さいて いるのは たんぼぼ だが

ええと、ぼくは だれだっけ

だれだっけ。

はるが きて、めが さめて

くまさん ぼんやり かわに きた

みずに うつった いいかお みて

そうだ、ぼくは くまだった

よかったな。

Japanese: LEVEL II

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory selection (continued on next page)

『さくらの はなびら』 まど・みちお

えだを はなれて

ひとひら

さくらの はなびらが

じめんに たどりついた

いま おわったのだ

そして はじまったのだ

ひとつの ことが

さくらに とって

いや ちきゅうに とって

うちゅうに とって

あたりまえすぎる

ひとつの ことが

かけがえのない

ひとつの ことが

Second Selection I

はる うた
春の歌

くきのしんべい
草野心平

ほっ、まぶしいな。

ほっ、うれしいな。

みずはつるつる

かぜはそよそよ

ケルルンクック。

ああいにおいだ。

ケルルンクック。

ほっ いぬのふぐりがさいている

ほっ おおきなくもがうごいてくる。

ケルルン クック。

ケルルン クック。

Japanese: LEVEL II (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection II (continued on next page)

『ぼくが ここに』 まど・みちお

ぼくが ここに いるとき

ほかの どんなものも

ぼくに かさなって

ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば

そのゾウだけ

マメが いるならば

その一つぶの マメだけ

しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは

こんなに だいに

まもられているのだ

どんなものが どんなところに

いるときにも

その「いること」こそが

なににも まして

すばらしいこと として

Second Selection III

こがねむし
黄金虫

のぐちうじょう
野口雨情

こがねむし かねも
黄金虫は、金持ちだ。

かねくらた くら
金蔵建てた、蔵たてた。

あめや みずあめ
飴屋で水飴、買って来た。

こがねむし かねも
黄金虫は、金持ちだ。

かねくらた くら
金蔵建てた、蔵たてた。

あめや みずあめ
飴屋で水飴、なめさせた。

Japanese: LEVEL III

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory selection (continued on next page)

『なぜ』川崎 洋

なぜ 風は

新しい割りばしのように かおるのだろう

なぜ 鳥は

空を滑れるのだろう

なぜ 夏蜜柑は酸っぱいのだろう

なぜ 海は

色を変えるのだろう

なぜ たった一人の人を愛するようになるのだろう

なぜ 涙は嬉しいときにも出るのだろう

なぜ フリュートはあんなに遠くまでひびくのだろう

なぜ 人はけわしい顔をするのだろう

なぜギターの弦は5本でなく7本でなく6本なのだろう

なぜ

なぜ

なぜ

そして 人は なぜ

いつの頃からか

なぜ

を言わなくなるのだろう

Japanese: LEVEL III (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection I

『秋の夜の会話』 草野心平

さむいね。

ああさむいね。

虫がないてるね。

ああ虫がないてるね。

もうすぐ土の中だね。

土の中はいやだね。

痩せたね。

君もずいぶん痩せたね。

どこがこんなに切ないんだろうね。

腹だろうかね。

腹とったら死ぬだろうね。

さむいね。

ああ虫がないてるね。

Japanese: LEVEL III (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection II

とき
時

ほりぐちだいがく
堀口大学

よろこ
喜びの時はみじかい

夢よりもなお儂い

つかのま
束の間もこれより長い

喜びを時が持ち去る

悲しみを時が置き去る

かくてこの心にしみる

悲しみが心にしみる

いつまでも

あした あさって
明日も明後日も

Japanese: LEVEL III (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection III

どうてい
道程

たかむらこうたろう
高村光太郎

ぼく まえ みち
僕の前には道はない

僕の後ろには道はできる

ああ、しぜんよ
ああ、自然よ

ちち
父よ

ぼくひとりだ こうだい
僕を一人立ちにさせた 広大な父よ

僕から目を離さないでで守ることをせよ

つね きはく ぼく み
常に父の気迫を 僕に満たせよ

このとおい どうてい
この遠い道程のため

この遠い道程のため

Japanese: LEVEL IV / NATIVE

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory selection

『ぼろぼろな駝鳥』 高村光太郎

荷が面白くて駝鳥を飼うのだ。

動物園の四坪半のぬかるみの中では、

脚が大股過ぎるじゃないか。

頸があんまり長過ぎるじゃないか。

雪の降る国にこれでは羽がぼろぼろ過ぎるじゃないか。

腹がへるから塹パンも食うだろうが、

駝鳥の眼は遠くばかり見ているじゃないか。

身も世もない様に燃えているじゃないか。

摺璃色の風が今にも吹いてい来るのを待ちかまえているじゃないか。

あの小さな素朴な頭が無辺犬の夢で逆まいているじゃないか。

これはもう駝鳥じゃないじゃないか。

人間よ、

もう止せ、こんな事は。

Japanese: LEVEL IV / NATIVE (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection I

『飛込』 村野四郎

僕は白い雲の中から歩いてくる

一枚の距離の端まで

大きく僕は戻る

時間がそこへ皺よる

蹴る 僕は蹴った

すでに空の中だ

空が僕を抱きとめる

空にかかる筋肉

だが脱落する

追われてきてつき刺さる

僕は透明な触覚の中で藻掻く

頭の上の泡の外に

女たちの笑いや腰が見える

僕は赤い海岸傘の

巨い縞を掴もうとあせる

Japanese: LEVEL IV / NATIVE (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection II (continued on the next two pages)

『生きる』 谷川俊太郎

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木漏れ日がまぶしいということ

ふっと或るメロディを思い出すということ

くしゃみをする事

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・ シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ

そして

かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるということ

自由ということ

生きているということ

いま生きているということ

いま遠くで犬が吠えるということ

いま地球が廻っているということ

いまどこかで産声があがるということ

いまどこかで兵士が傷つくということ

いまぶらんこがゆれているということ

いまいまがすぎてゆくこと

生きているということ

いま生きてるということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ

Japanese: LEVEL IV / NATIVE (cont'd.)

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: The Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Second Selection III (continued on next page)

『汚れつちまつた悲しみに・・・』 中原中也

汚れつちまつた悲しみに

今日も小雪の降りかかる

汚れつちまつた悲しみに

今日も風さへ吹きすぎる

汚れつちまつた悲しみは

たとへばきつね狐のなまこま革裘

汚れつちまつた悲しみは

小雪のかかつてちぢこまる

汚れつちまつた悲しみは

なにのぞむなくねがふなく

汚れつちまつた悲しみは

はげ倦怠のうちに死を夢む

汚れつちまつた悲しみに

いたいたいしくも怖^{おそ}気づき

汚れつちまつた悲しみに

なすところもなく日は暮れる・・・